

2月定例会では、9つの会派が代表質問を行いました。代表質問を行った会派の発言順及び発言時間(答弁含む)は次のとおりです。

公明党(180分)、創生市川・自民党(165分)、未来市川(135分)、自由民主の会(120分)、新しい流れ(120分)、いちかわ市民クラブ(105分)、日本共産党(105分)、地域政党チームいちかわ(105分)、れいわ・無所属・共生の会(105分)

※2次元コードから代表質問の動画をYouTubeにてご覧いただけます。ご覧いただけない場合は、恐れ入りますが議会事務局議事課までお問い合わせください(047-712-8673)。

代表質問

創生市川・自民党

(総括質問者)

稲葉 健二

石原たかゆき

小泉 文人

岩井 清郎

つかこしたかのり

石原みさ子

加藤 武央



放課後保育 クラブ

問 本市が設置している放課後保育クラブは指定管理者が運営しているが、指定管理期間が令和8年度で満了する。

了になるとのことである。9年度以降の運営においては子どもたちに影響がないように進めて欲しいと思うが、本市はどのように考えているのか。また、放課後保育クラブと放課後子ども教室の交流や安全管理について、

地域政党チームいちかわ

丸金ゆきこ

富家 薫

野口じゅん



学校運営 支援事業

問 令和7年度に開始した学校運営支援事業は、クラス数や児童生徒数などに応じて配当する既定予算とは別に、各学校に30万円の予算を配当するものである。現場の判断で学校や地域の特性を生かした取り組みや

教職員の働き方改革に活用することができ、各学校にとって喜ばしい事業と考えるが、これまでの取り組みと今後の展開について問う。

答 本事業に関しては、各学校が希望する内容ごとに教育委員会と協議しながら取り組みを進めている。7年度は、学校や地域の特性を生かした取り組みとして、外部から講師を招いた講演

避難所運営と 教職員の協力

問 本市では市立小学校全39校が指定避難場所となっており、住民、学校、市職員が連携する小学校区防災拠点協議会が設置されている。発災直後の避難所運営

では市職員が到着するまでの時間をいかに埋めるかが重要な課題だが、教職員からはどのような協力を得る必要があると考えているか。

答 発災時における教職員の第一義的な役割は児童生徒の安全確保であるが、施設管理者として、避難者への対応などについても可能な限り協力していただくこととしている。授業中に発災した場合には、初動での住民避難の対応が考えられることから、学校の管理職が同協議会に出席した上で、避難所の運営方法を把握し、教職員と共有すること、初動での住民避難に対応すると共に、児童生徒の安全確保にも努めていく。

市立学校の 安全安心

問 令和7年度末時点における、小中学校の校舎内にあるトイレの洋式化率は約72%とのことである。和式トイレが空きがない場合、利用をためらい我慢する子どももいると聞いているが、洋式化を早急に進める考えはあるのか。また、現在は全ての小学校、義務教育学校、特別支援学校の通用門に登下校見守りシステムのカメラを設置しているが、

の組織も子どもたちを最優先に考えており、万が一事故が起きた場合にも、事情を確認した上、保護者に説明する体制を整えている。

問 市は商店会が設置する商店街灯の電気料金を対象に補助金を交付しているが、電気料金の高騰により商店会の負担が増えている。本市の商店街灯への補助金額は他市と比べて少ないと感じるが、今後、補助金額を増やしていく考えはあるか。

答 市が電気料金の補助金を交付している45商店会のうち42商店会では、補助上限額を超える電気料金となっており、総額の4割程度の電気料金が商店会の負担となっている。他市も同様の補助金を交付しており、他市と比較して本市が極端に低い状況ではないと考えているが、商店会からの意見も踏まえ現状の把握に努めると共に、補助金額につ

いても検討を進めていく。

間事業者の店頭回収場所の新設、自治会館の空きスペース等を拠点回収場所として活用できないか、関係者と協議を進めている。また、松戸市では、集団資源回収によりペットボトルの約96%を回収しており、本市においても、ペットボトルを有価資源回収の品目に加え、奨励金の対象とすることは、分別の徹底や資源化の推進に一定の効果があると認識しているが、本市においては、8年4月から開始する公共収集の枠組みの中で、市民の利便性を維持しつつ確実な資源化を目指している。今後は、公共収集におけるペットボトル単独収集の運用を注視し、その実施状況や他市の事例等を踏まえながら、集団資源回収における品目の拡充について検討していく。

商店街灯 への補助

ペットボトル の拠点回収

問 令和8年4月から開始するペットボトルの分別収集については、各集積所に回収ネットを設置して回収する方法と比べ、手間や費用を軽減できる拠点回収を進めて欲しいと考えるが、拠点を増やす考えはあるか。

また、松戸市ではほとんどペットボトルを集団資源回収で回収していることから、本市においても将来的には、市民の利便性を維持しつつ確実な資源化を目指している。今後は、公共収集におけるペットボトル単独収集の運用を注視し、その実施状況や他市の事例等を踏まえながら、集団資源回収における品目の拡充について検討していく。



避難所開設・運営訓練の様子



左:拠点回収用のネット 右:一般回収用のネット ※写真は一例です